

世界の漁業の現状と資源状況について

1. 世界の漁業生産の動向

(1) 漁獲及び養殖の生産量

世界の人口は今後 50~60 年にわたり増加を続け、2024 年の約 82 億人から、2080 年代半ばには約 103 億人に達すると予測されている (UN DESA 2024)。国際連合食糧農業機関 (FAO) のフードバランスシートにおける 2023 年のデータによれば、水産物は、人類に供給される動物性タンパク質 (1 人 1 日当たり約 39g) の約 15% にあたる約 6g を担っている (FAO 2025a)。以下に述べるとおり、世界の水産物の需要の増大に伴い、漁業生産量は増大しているが、漁獲による生産量は近年横ばい傾向であり、需要の増大には養殖による生産量の増大が応えている状況にある。それでも、水産物供給に果たす海面漁業の役割は依然として大きく、漁獲対象資源を科学的根拠に基づき持続的に利用することは重要である。

世界の魚介類 (海藻類、ほ乳類を除く) の漁獲と養殖を合わせた漁業生産量は、FAO (2025b、2025c) の統計によると、1950 年以降ほぼ増加傾向を維持しており、2023 年には、約 188.9 百万トンとなった。 (図 1)。漁獲による生産量 (海面+内水面) は、2023 年において約 90.4 百万トンであり、過去 20 年程度ほぼ横ばいで推移している。養殖による生産量 (海面+内水面) は、2023 年において約 98.5 百万トンであり、2013 年の約 66.9 百万トンから 10 年間で平均的には年約 3.9% の割合で増加している。

FAO (2025b) の統計によると、世界の海面漁獲量は、1950 年の約 16.8 百万トンからほぼ増加を続け、1976 年には 60 百万トンを超え、1996 年に約 86.4 百万トンでピークとなった (図 1)。その後はやや減少~横ばい傾向が続き、2023 年は約 78.3 百万トンであった。海域 (FAO による区分) 別の 2023 年の漁獲量は、北西太平洋が 19.1 百万トンで最も多く、次いで中西部太平洋が 13.8 百万トンであり、北東大西洋の 8.3 百万トン、南東太平洋の 6.9 百万トン、東インド洋の 6.0 百万トンが続いている。

国別の 2023 年の海面漁獲量は、中国が 12.0 百万トンで最も多く、次いでインドネシアが 7.3 百万トンであり、ロシア (5.2

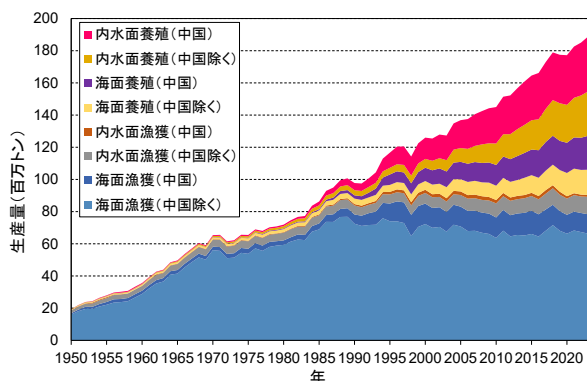


図 1. 世界の漁業生産量の推移 (海藻類、ほ乳類を除く、1950~2023 年) (FAO 2025b、2025c に基づいて作成)

百万トン)、米国 (4.1 百万トン)、インド (4.0 百万トン)、ペルー (3.5 百万トン)、ベトナム (3.3 百万トン) が続いている。

魚種別の 2022 年の漁獲量は、FAO (2024) によると、南東太平洋のアンチョベータ *Engraulis ringens* が約 4.9 百万トンで最も多く、スケトウダラ *Gadus chalcogrammus* が約 3.4 百万トンで次に多かった。これにカツオ *Katsuwonus pelamis* (約 3.1 百万トン)、タイセイヨウニシン *Clupea harengus* (約 1.6 百万トン)、キハダ *Thunnus albacares* (約 1.6 百万トン) が続いている。

なお、アンチョベータの漁獲量は、FAO (2025b) の統計によると 1960 年以降極めて大きく変動しており、1970 年に 13.1 百万トンでピークに達した後大きく落ち込み 1984 年には 94 千トン、その後また増加に転じ 1994 年に 12.5 百万トンという推移を示している。

(2) 我が国周辺水域の漁獲動向

我が国周辺を含む北西太平洋における漁獲量は、FAO (2025b) の統計によると、1950 年から増加を続け、1984 年に 20 百万トンを超え、以降は変動しながら 19 百万~24 百万トンの範囲で推移している (図 2)。最近 5 年間は 19 百万~20 百万トンの水準で変動しており、2023 年は 19.3 百万トンであった。この漁獲のほとんどは、中国 (約 11.2 百万トン)、ロシア (約 4.0 百万トン)、日本 (約 2.7 百万トン) 及び韓国 (約 0.9 百万トン) による。

北西太平洋における主な魚介類の漁獲量の推移は、1970 年代から 1990 年代にかけてはスケトウダラが、1980 年代から 1990 年代初めにかけてはマイワシ *Sardinops sagax* が、それぞれ大量に漁獲され、1980 年代後半にはそれぞれの魚種で 5 百万トンを超える漁獲量が記録された (図 3)。その後、スケトウダラでは 2000 年代に 1 百万トン台に減少して以降は 1.1 百万~2.1 百万トンの範囲で推移し、2023 年は約 2.1 百万トンであった。マイワシでは 1990 年代に急激に減少して、1996 年以降は約 19 万~約 1.3 百万トンの範囲で推移し、2023 年は約 1.3 百万トンであった。マサバ *Scomber japonicus* では、1970

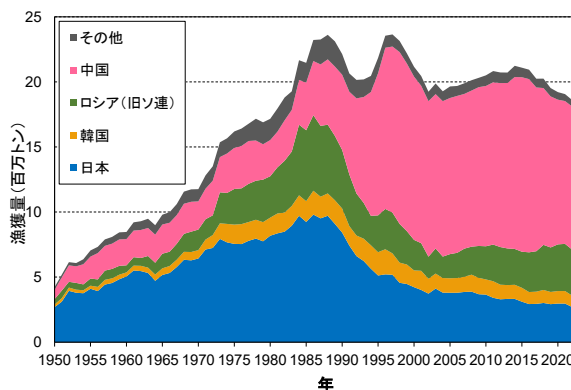


図 2. 北西太平洋における国別漁獲の動向 (海藻類、ほ乳類を除く、1950~2023 年) (FAO 2025b に基づいて作成)

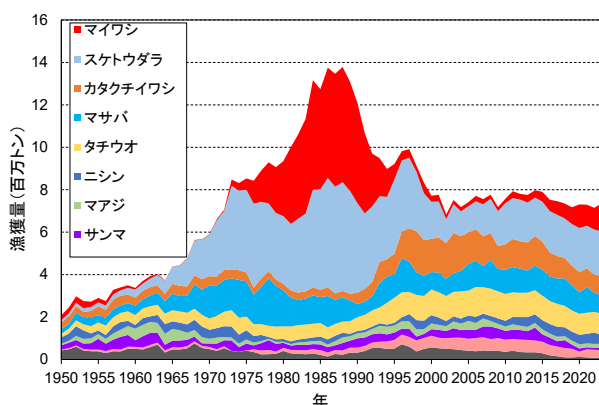


図3. 北西太平洋における主要資源の漁獲動向 (1950～2023年) (FAO 2025b に基づいて作成)

年代は約 1.4 百万～約 2.2 百万トンと多く漁獲されたが、1990 年代初めに 60 万トン台に減少した。その後 2000 年代後半以降は概ね 1 百万トン以上で推移し、2023 年は約 0.9 百万トンであった。

2. 漁業資源の漁獲状況

FAO(2024)によれば、1974 年以降の評価において、生物学的に持続可能でない過剰に漁獲利用された状態にある資源(海域別魚種)の割合は 1974 年には 10%であったが、2021 年には 37.7%まで増加した(図 4)。一方、漁獲を拡大する余地のある資源を含めた持続的に利用可能な状態にある資源は 1974 年の 90%から、2021 年には 62.3%まで減少している。世界の漁獲量の上位 10 魚種については、2021 年において、78.9%の資源が生物学的に持続可能な状態にあったが、マサバ *Scomber japonicus*、マイワシ *Sardinops sagax* 及びスケトウダラ *Gadus chalcogrammus* については、過剰に漁獲利用された状態にある系群の割合が平均よりも高かったとされている。また、マグロ・カツオ類の主要 7 種(ビンナガ *Thunnus alalunga*、メバチ *T. obesus*、タイセイヨウクロマグロ *T. thynnus*、ミナミマグロ *T. maccoyii*、クロマグロ *T. orientalis*、カツオ及びキハダ)については、2021 年に約 5.0 百万トン漁獲されており、2019 年から 10%減少している。マグロ・カツオ類のうち 87%の資源が生物学的に持続可能なレベルで漁獲利用された状態にある。

過剰に漁獲利用された状態にある、あるいは漁獲を拡大する余地のない資源については、適切な資源管理措置により、資源の回復あるいは維持を図る必要がある。漁獲を拡大する余地のある資源についても、科学的根拠に基づく的確な資源評価・管理が必要である。現在、各国の科学者が漁業者の協力を得なが

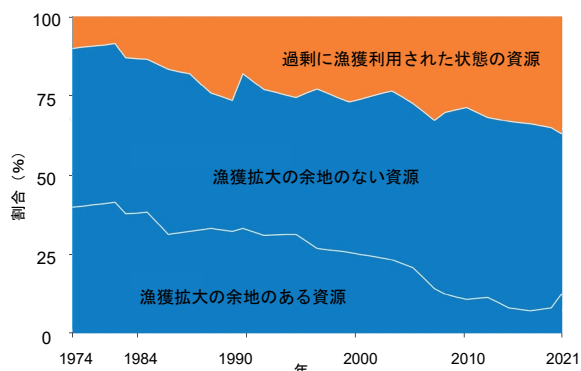


図 4. 1974～2021 年における世界の海洋水産資源の漁獲利用状態別割合の推移 (FAO 2024 の Figure18 を改変) 橙色は生物学的に持続可能ではない漁獲状態、青色は生物学的に持続可能な漁獲状態にある

ら資源状態の解析に尽力し、世界の各水域の資源評価・管理において重要な役割を果たしているが、評価に用いる指標や、生物学的な知見が乏しい資源も多い。我が国は、責任ある漁業国・消費国として、資源状態及び変動要因の把握に努めるとともに、地域漁業管理機関において、従来にも増して積極的なリーダーシップを発揮し、科学的知見に基づく適切な資源管理措置の導入に貢献する必要がある。

執筆者

水産庁増殖推進部漁場資源課 長澤亮佑

参考文献

FAO. 2024. PART 1 WORLD REVIEW. In FAO(ed.), The State of World Fisheries and Aquaculture 2024. Rome, Italy. 1-111 pp.
 FAO. 2025a. FAOSTAT, Food Balances (2010-). <http://www.fao.org/faostat/en/#data/FBS> (2026 年 3 月 16 日)
 FAO. 2025b. Global capture production Quantity (1950-2023). https://www.fao.org/fishery/statistics-query/en/capture/capture_quantity (2026 年 3 月 16 日)
 FAO. 2025c. Global aquaculture production Quantity (1950-2023). https://www.fao.org/fishery/statistics-query/en/aquaculture/aquaculture_quantity (2026 年 3 月 16 日)
 UN DESA. 2024. World Population Prospects 2024: Summary of Results. UN DESA/POP/2024/TR/No.9. New York, USA. 80 pp. https://population.un.org/wpp/assets/Files/WPP2024_Summary-of-Results.pdf (2026 年 3 月 19 日)